



アメリカンフットボール日本選手権 プルデンシャル生命杯 第75回ライスボウル

75年の歴史を誇り、日本のアメリカンフットボールを代表するボウルゲームとして広く親しまれてきたライスボウルの試合方式が今年度から変わります。

ライスボウルは1948年に東西大学選抜対抗戦としてスタートし、過去38年間は大学リーグ代表と社会人リーグ代表が対戦する日本選手権との位置づけで開催されてきました。

2021年3月に日本アメリカンフットボール協会が発表したとおり、来年1月3日に東京ドームで行われる「第75回ライスボウルbyプルデンシャル生命」から装いも新たに、社会人リーグ「Xリーグ」が王座を懸けて戦う形式で実施されることになりました。

ライスボウルはこれまで「学生王者対社会人王者」という対戦形式で広く認知され、日本のアメリカンフットボールの発展に大きな役割を果たしてきました。その間に日本の競技レベルは本場アメリカ、カナダに次ぐ高いものとなり、海外のプロリーグに参戦する日本人選手も増えてきました。

75回目を迎えた今年度からライスボウルは新たな歴史を刻むことになります。日本のアメリカンフットボール最高峰のボウルゲームでトップリーグであるXリーグが日本選手権を競うことにより、競技のさらなる隆盛と発展に寄与していきます。

【ライスボウルの経緯】

1948年に関東大学選抜対関西大学選抜の対戦として開始。

1984年の第37回からは大学リーグ代表と社会人リーグ代表の対戦する「日本選手権」として開催される。

社会人代表は26勝、学生代表は12勝。第63回大会からは社会人代表の優勝が続いた。

大会開催要項



- 大会名称：** アメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル生命杯第75回ライスボウル
American Football Japan Championship Rice Bowl 75 by Prudential
- 同日開催：** 時： 2022年1月3日（月） 15時00分 キックオフ（開場10時20分）
女子タッチフットボール全日本王座決定戦第27回さくらボウル 10時30分キックオフ
関東中学生アメリカンフットボール オールスター戦 11時55分キックオフ
- 会場：** 東京ドーム（東京都文京区後楽1-3-61）
- 主催：** 公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
主管： 一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会
運営協力： 一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟
後援： スポーツ庁、アメリカ大使館、日刊スポーツ新聞社、読売新聞社
特別協賛： プルデンシャル生命保険株式会社
協力： 株式会社東京ドーム他
- 対戦形式：** パナソニック インパルス（一塁側） vs. 富士通フロンティアーズ（三塁側）
1クォーター12分の4クォーター制 ハーフタイム20分
第4クォーター終了時点で同点の場合は「タイブレイクシステム」で延長戦を行う
- 放送：** NHK-BS1（生中継）※15時00分～試合終了まで（予定）
配信： XリーグTV Powered by Eleven Sportsで有料ディレイ配信および見逃し配信
URL: <https://xleague.tv.elevensports.jp/>
- 入場料：** ◆バルコニー指定席 前売: 6,000円 当日: 6,700円
◆A指定席 前売: 4,500円 当日: 5,200円
◆B指定席 前売: 3,500円 当日: 4,200円
◆C指定席 前売: 3,000円 当日: 3,700円
※全席指定 大会プログラム無料配布
- 販売開始：** 先行販売は12月8日（水）から 一般販売は12月13日（月）から
前売券発売場所： ◆Xリーグチケット URL: <https://xleague.tstar.jp/>
- ハーフタイム：** Xリーグチアリーダーズ【スペシャルショー】
その他： ◆X LEAGUE AWARDS 2021
◆高等学校リーグ、学生リーグ優勝校表彰、監督表彰
- 備考：** 本競技会は、日本アンチドーピング規程が適用されます。
大会名称は「アメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル杯第75回ライスボウル」または「第75回ライスボウル by プルデンシャル生命」と呼称・表記いただきますようお願いいたします。
- 問合せ先：** 日本アメリカンフットボール協会 電話:03（5843）0482
日本社会人アメリカンフットボール協会 電話：03（6455）5272
- ホームページ：** 日本アメリカンフットボール協会公式サイト:<https://americanfootball.jp/>
Xリーグ公式サイト:<https://xleague.jp/>

X1 Super セミファイナル詳報①

パナソニック インパルスがIBMとのシュートアウトを制し、6年ぶり8回目のライスボウル出場

リーグ戦1位通過のパナソニック インパルス（7勝0敗）と4位のIBM BIG BLUEのセミファイナルは38-31でインパルスが勝ったが、試合残り11秒まで勝敗の行方が分からない大接戦となった。

先制したのはインパルスだ。試合最初の2ポゼッションでいずれもQBアンソニー・ロウレンスがWRレオンシャ・フィールドと桑田理介にタッチダウンパスを成功させ、14-0とリードを奪う。



しかし、X1 Superのリーディングパサー政本悠紀を擁するIBMオフェンスは積極的にロングパスでインパルスの守備陣を攻めていく。そして、政本からWR近江克仁への53ヤードタッチダウンパス、TEジョン・スタントンへの22ヤードスコアリングパスであっという間に同点に追いついた。

その後はインパルスがK佐伯眞太郎のフィールドゴールで均衡を破ればIBMは丸山和馬がすぐに3点を入れて追いつき、インパルスの新人RB立川玄明がタッチダウンランを決めればIBMは政本から近江への2本目のタッチダウンパスでまた同点にするという展開で前半が終了する。

そして、試合の潮目が第3クォーターに変わる。IBMの攻撃がパントに終わった後、インパルスはパス中心のオフェンスを組み立てつつ、ゴール前9ヤードでファーストダウンを迎えた。しかし、ロウレンスからWR木戸崇斗へのパスで3ヤード進んだ後はミッチェルビクター・ジャモアの2回のランと立川のフォースダウンのランがIBM守備陣にストップされ、敵陣2ヤードで得点機を逸する。

エンドゾーンを背負った状況からIBMは政本の4連続パス成功などで一気にフィールド中央まで陣地を回復し、その後2度のフォースダウンギャブルを成功させて最後は政本からWR白根滉への2ヤードタッチダウンパスでついに逆転に成功した。

この試合で初めて追う展開となったインパルスはパスでIBMに対抗する。IBMに傾いた流れを強引に引き寄せたのはロウレンスから木戸への30ヤードのパスだった。二人のディフェンダーに囲まれた木戸だったが、やや高めのをパスをジャンプして奪い取るようにパスキャッチが成功。一気に敵陣14ヤードまでボールを進め、次のプレーでも木戸がパスキャッチして試合は31-31の振出しに戻った。

オフェンスの奮起に今度はインパルスのディフェンスが応える。LBジャボリー・ウィリアムスがこの試合初めてのQBサックで11ヤードのロスさせた。このプレーが効いてIBMはパントに追いやられる。そして、敵陣47ヤードの好位置から始まったポゼッションでインパルスは再びロウレンスから木戸へのタッチダウンパスで38-31と勝ち越しに成功したのだった。

追いつがるIBMは政本がスタントンやWR遠藤健吏へのパスなどで、残り18秒で敵陣34ヤードまで攻め込む。同点に追いついてタイブレイクに持ち込みたいIBMだったが、パスラッシュを受けてやや無理な体制で投げた政本のパスはインパルスLB青根奨太がインターセプトして万事休すとなった。

X1 Super セミファイナル詳報②



富士通がオービックとの死闘を制す 来月3日のライスボウルでパナソニックと頂上決戦

第7節の再戦となった一戦は、ワンポゼッション差の好ゲームとなり、17-10で富士通が勝利した。富士通は、来年1月3日の日本選手権ブルデンシャル生命杯第75回ライスボウルでパナソニックインパルスと日本一を懸けて戦う。

先にスコアボードに点を刻んだのはオー

ビックだった。昨季王者は、富士通のファーストドライブをスリーアンドアウトで止めると、地村知樹、荒竹悠大、望月麻樹のタイプが異なるRBの地上戦を軸に前進。敵陣5ヤードまで進みタッチダウンこそ奪えなかったが、山崎丈路がきっちりと22ヤードのフィールドゴールを沈めた。

3点を追う富士通は、QB高木翼が正確にパスを通して敵陣まで侵攻する。ゴール前18ヤードからのサードダウンロングでは、相手守備につかまれながらもWR宜本潤平にパスを通してファーストダウンを更新すると、最後はランパスオプションからRBトラッシュ・ニクソンがボールをエンドゾーン内に運び逆転に成功した。

さらに富士通は第2クォーター、敵陣35ヤードからの攻撃でQB高木が冷静なクォーターバックキングを披露する。背番号18の司令塔は、サードダウンまで追いつめられるもショートパスをWR松井理己に通してファーストダウンを取ると、2プレー後にエンドゾーン内のWR松井へパス。捕球した松井の足がエンドゾーン内に残っていないということでパス失敗の判定だったが、富士通はビデオ判定を要求。しかし判定通りでフォースダウンとなり、富士通はフィールドゴールによる加点に留まった。

7点のビハインドに変わったオービックは、自陣49ヤードからのドライブをスタートすると、この好機に3試合ぶりに先発復帰したQBジミー・ロックレイが、同じく故障明けで第3節以来となるスターターのTEホールデン・ハフへ34ヤードのパスを成功。これでゴール前13ヤードまで進むと、RB望月が力強いランで中央を突いてエンドゾーンまで入り、わずか3プレーで試合を振り出しに戻した。

仕切り直して迎えた後半戦、オービック最初の攻撃をパントに封じた富士通は、第3クォーター最初のドライブを自陣33ヤードから開始。QB高木が、WRサマジー・グラントへこの試合初めてパスを成功させるなど着実に前進。WR小椋恭平への14ヤードパスを成功させた後に、QB高木はエンドゾーン内中央へ走りこんだWR松井へふわりとした柔らかいタッチのパスを投げると、WR松井がスライディングして好捕。富士通が勝ち越しに成功した。

勝負は最終クォーターに突入する。2年ぶりの頂上決戦を目指す富士通は、徳茂宏樹のインターセプトでオービックの攻撃の芽を摘めば、ゴール前7ヤードまで攻められたシリーズでも、昨季王者の執念のフォースダウンギャブルを鉄壁の守備で止めて得点を許さない。連覇に向けて負けられないオービックも、試合残り1分32秒から同点の望みをかけたドライブを開始。自陣18ヤードから始めたシリーズは、QBロックレイのパスや相手の反則もあり富士通陣25ヤードまで侵入。そして残り2秒、富士通守備のプレッシャーを受けたQBロックレイが苦し紛れに投じたパスは、エンドゾーン内で待ち構えていた藤田篤ががっちりキャッチ。この瞬間に熱戦の終止符が打たれ、富士通のサイドラインは歓喜の渦に包まれた。

第75回ライスボウルbyプルデンシャル生命の見どころ

6年ぶり5度目の日本一を目指パナソニックインパルスと2年ぶり6度目の王座を狙う富士フロンティアーズが今季から試合形式の変わったアメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル杯第75回ライスボウルで雌雄を決する。

両者は社会人選手ジャパンエックスボウルで過去に両者は3度対戦し、インパルスが2勝1敗とリードしている。

今季ここまで全勝をキープし、シーズン当初から「日本一」を唯一無二のゴールと公言するインパルスにとってリーグ戦1位もセミファイナル勝利もあくまで通過点でしかない。オフェンスはRBミッチェルビクタージャモーを中心としたランとQBアンソニー・ロウレンスがWRレオンシャ・フィールズ、木戸崇斗、ブレナン翼らと形成するホットラインで高い得点力を誇る。ディフェンスもセミファイナルでIBMに4TDを許したものの、LBジャボリー・ウィリアムス、DLデイビッド・モトゥが繰り出すパスラッシュは強力だ。



一方の富士通はX1 Superのリーディングラッシャーであるトラショーン・ニクソンのパワフルなランが大きな武器だ。空中戦ではリーグ屈指のパサーに成長した高木翼がWR松井理己、サマジー・グラント、宜本潤平といった豊富なレシーバー陣にロングパスを通す。多彩な攻撃を見せるオフェンスに対し、ディフェンスはインターセプト王のDB奥田凌大、キャプテンで守備範囲の広いLB趙翔来、相手のエースレシーバーとマッチアップするDBアイルワン・アディヤミラプレーメーカーがそろう。

レギュラーシーズン第6節の対戦ではインパルスが第4Q途中まで26-7とリードした展開から富士通がじわじわと追い上げたが及ばず、1ポゼッション差で決着した。それから約2か月を経ての再戦はまた違って展開が待っているだろう。

トップリーグのNo.1を決めるライスボウルでの戦いは、インパルスの堅いディフェンスがニクソンのランをいかに止めるかがカギを握る。一発のタックルではなかなか倒れないニクソンに対し、タックルのうまいインパルスのディフェンスがどう立ち回るか。お互いに得点力のあるオフェンスを持つだけに、点の取り合いとなる可能性もある。とすると、相手に有利なフィールドポジションを与える重大な反則や攻撃権を奪われるターンオーバーなどのミスは致命傷になりかねない。

堅実な戦いの中にも王座を手繰り寄せる思い切ったビッグプレーが必要だ。それを達成できるチームが社会人同士で争われる日本選手権を勝ち取るにふさわしい。

パナソニック インパルス：今季7勝0敗。セミファイナルは38-31でIBMに勝利。ライスボウル出場は過去7回で優勝が4回（1994、2004、2007、2015）

富士通フロンティアーズ：今季6勝1敗。セミファイナルは17-10でオービックの勝利。ライスボウル出場は過去5回で優勝は5回（2014、2016-2019）

直近5回の対戦成績

21/11/13	○パナソニック 26-20 ●富士通
19/9/7	●パナソニック 27-45 ○富士通
19/12/16	●パナソニック 26-28 ○富士通
18/10/20	●パナソニック 10-17 ○富士通
17/10/1	○パナソニック 24-9 ●富士通